

研究テーマの育て方について考える

— 現場に従事しながら研究者を目指す —

日本福祉大学大学院福祉社会開発研究科社会福祉学専攻博士課程 氏名 子安 由美子 (会員番号 9082)

キーワード: 人材育成・キャリアデザイン・就労定着

1. 報告者プロフィール

高校卒業後、一貫して「人と関わる」ことを職業として経験を重ねる中で福祉の仕事に携わりたいと思うようになり、通信課程の大学で学びながら福祉の実践現場へ

◆ 日本福祉大学 通信教育部福祉経営学部医療・福祉マネジメント学科卒

大学在学中に知的障害者の就労支援事業所に就職し、生活支援員兼事務職として新規事業の立ち上げに携わる

◆ 社会福祉協議会へ転職

就職支援セミナー・就職フェア等の人材確保事業、認知症やサービス管理責任者・福祉職員キャリアパス対応研修課程などの研修企画・運営等を担当

現在は、県民連事務局業務、生活福祉資金貸付事業を担当

◆ 日本福祉大学大学院 社会福祉学研究科社会福祉学専攻修士課程（通信教育）卒

福祉・介護職のキャリアデザインをテーマに修士論文をまとめる

◆ 日本福祉大学大学院福祉社会開発研究科社会福祉学専攻博士課程在籍中

修士の研究をさらに発展させたいと考えて、博士課程に進学

2. 研究テーマの育て方について考える

【実践現場での疑問】

- ◆ 前職場（福祉事業所）で中堅となって法人を支えていた先輩職員が次々と離職するが、その後も福祉業界で活躍する状況を目の当たりにする
- ◆ 当時、法人内での新人研修やカンファレンスは比較的充実していたが、キャリア形成に関する研修はなく、役職に就いて初めて自身の職責について考えなければならない状況
- ◆ 職員がキャリアビジョンを描き、職場にキャリアパスシステムが構築されていたら、多くの職員が離職せずにキャリアを積んでいったのではないかと
- ◆ 自身も家族の介護と両立できずバーンアウト
- ◆ 福祉職員の教育訓練に携わり、福祉・介護従事者がキャリアを形成するための一助を担いたいと考え、研修実施機関である現職場に転職
- ◆ 福祉・介護分野の人材育成について多方面から学びたい欲求が湧き上がる
- ◆ 自分自身に確たる自身がなく、上司との面談で思い切って「大学院へ行きたい」と打ち明けたら背中を押してくれた

【修士課程での研究】

- ◆ 研究の経験なし
- ◆ 学部で学生へのキャリア教育に力を入れていこうというタイミングで指導教員と出逢う

- ◆ 福祉・介護に従事する職員が、自身のキャリアデザインを描けるようになることにより、福祉・介護サービス利用者（以下、利用者）の今後の生活展望を意識した支援につなげることができるのではないかと考えた
- ◆ 研究に理解ある上司や職務で出逢った関係機関の方々の協力を得て、職場（社協）で実施していた福祉・介護職を対象としたキャリアデザインの構築に向けた研修モデル事業をベースに調査・研究を実施した
- ◆ 福祉職の研修受講が福祉・介護分野でのキャリアデザインに及ぼす影響に関する研究をテーマに修士論文をまとめて、修士学位を取得
- ◆ キャリアデザインの構築に向けた研修を受講した福祉職が、受講後の職場においてこの研修を受けた内容をもとに、仕事への取り組み姿勢の変化やキャリアデザインに向けた取り組みをしていることを把握
- ◆ 研修受講が福祉職として働き続けようという意向に一定の効果がある

【博士課程での研究】

- ◆ 修士課程でやり残したことを博士課程でやり遂げたい
 - ・研修受講が福祉・介護分野でのキャリアデザインに及ぼす影響を経年で検証していく
 - ・福祉職の属性や勤務している事業所の違いに応じた研修プログラムのあり方について検討
 - ・福祉職として働き続けることに影響を及ぼす要因は何か
- ◆ 研究テーマ「福祉職定着を促進する要因に関する研究」
 - －福祉職の働き続ける意向に影響を及ぼす事業所・法人の取組みに着目して－
- ◆ 予想外の人事異動で研修業務から離れることになり、研究を続けられるのか
- ◆ 悩んだ結果、担当業務とは関わりのないところで研究を続けようと思意
- ◆ 第1研究は福祉職としての就業継続意識に影響を及ぼす要因に関する研究をテーマに設定
- ◆ 福祉系専門学校卒業生を対象とした質問紙調査を実施
- ◆ 調査結果を初めての学会誌投稿にトライして資料としてなら可、論文としてはリジェクト…
 - ・調査対象を地域、特定の養成校の卒業生を対象としていることに限界があるのではないかと
 - ・資料としては貴重だが分析が不十分
 - ・調査結果で明らかになった内容は福祉に関する職種に限らず同様の指摘がなされている
 - 先行研究で明らかになっている点と福祉の仕事に従事している人との比較検討
- ◆ もう一度分析からやり直そうと思った矢先のコロナ禍
- ◆ 博士課程に合格した際に指導教員から贈られたメッセージ
博士課程の研究は修士課程とは比べものにならないくらい厳しい

3. 研究を進める上での悩み

- ◆ 社会福祉学領域における研究でどこまで組織開発に踏み込んでよいのか
 - 法人の取り組みを研究していくと法人経営に踏み込まざるを得ない…
- ◆ 自身の研究の参考となる良い論文との出逢い方
- ◆ 業務が多忙になるとアカデミックな環境から距離ができてしまいがち
 - 研究者や様々な専門職の方々とのネットワーク作り